

■春永く梅ヶ春

帝キネ 芦屋時代映畫

原作並脚色者 木村 一馬氏  
監督者 江後 岳翠氏  
撮影者 隅田 博氏

主要役割

垣川半三郎 明石 綠郎氏  
安中宗三 松本 田三郎氏  
塚原孫右衛門 阪東 豐昇氏  
八咫鳥の九兵衛 實川 延笑氏  
久保田傳之進 中村 飯曉氏  
雲霧お濱 松枝 つる子嬢  
半三郎妻お藤 柳 まさ子嬢  
愛妾お里 泉 清子嬢  
侍女お初 久野 あかね嬢

解説——「紅あざみ」について江後岳翠氏が監督製作した時代映畫、「恒川半三郎」を改題發表したものである。  
略筋——土浦藩にあつて若くして柳生流の奥藤に逢せる恒川半三郎は或日塚原孫右衛門父娘の危急を救ひそれが縁で娘お藤を迎へス事になつた。久保田傳之進は重役ゆ一人として驕慢な行ひが多かつたが想ふお藤が半三郎のものとなつた。然し辛辣を極めた傳之進の手段にいら忍耐は出来ず遂に彼は傳之進を刺し忠僕宗三の奨めらるゝと舊僕彌助を上洲へ頼つて行つた。やがてお藤には玉の櫛が子か生れた。彌助の女房お濱は稀な毒婦で情夫を謀つてお藤を賣り飛ばさうとし半三郎を伊香保峠におびき出し彼には危機を迫つた彼等の運命や如何に。